

2016年12月4日 公開ブリーフィング
環境最先端都市・東京2020に向けて
～五輪環境対策の課題～

課題先進国日本から見た オリパラ2020の意義

小宮山 宏

プラチナ構想ネットワーク 会長
三菱総合研究所 理事長
東京大学 第28代総長

日本が、21世紀の持続社会をどう考えるのかを見せる機会

● 環境の持続のために「都市鉱山」「再エネ」「省エネ」「自然共生」

象徴的プログラム

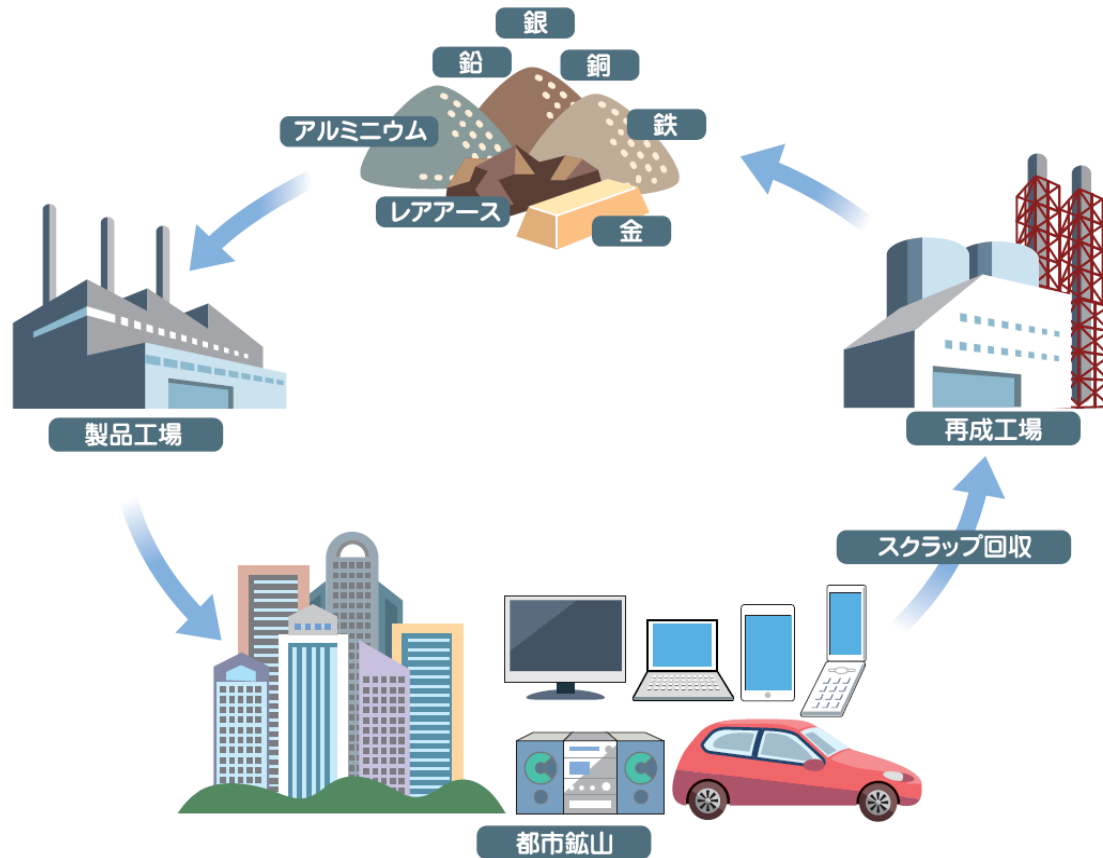
- ・都市鉱山からのメダル
- ・福島、東北の再生可能エネルギーで運営
- ・省エネルギー各種 (ZEH, ZEB, EV, FCV, 街等)
- ・アユの戻った東京の川のショーアップ (公害克服を超えて)

● 人間の持続のために「自由な参加型社会」

- ・すべてを国民参加型にすること
- ・募集型: 東京2020応援プログラム

SDGs・パリ協定に応える「持続社会の姿」がレガシー

「先進国の都市鉱山」(=飽和した人工物) は必要十分

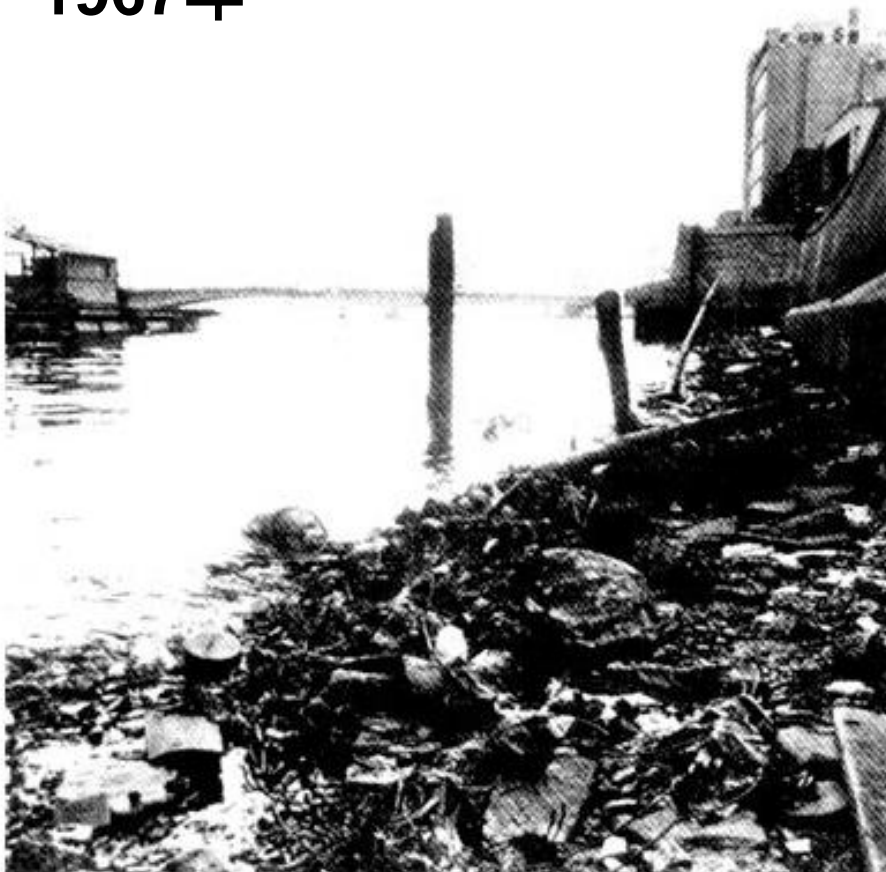


21世紀、人類は資源採掘から解放され循環社会へ

出所:新ビジョン2050 小宮山宏・山田興一著、日経BP社

公害を克服しアユが戻った東京の川

1967年



現在



東京屋形船案内

http://www.t-yakata.com/tyh_dkship.htm

環境省 図で見る環境白書 昭和57年

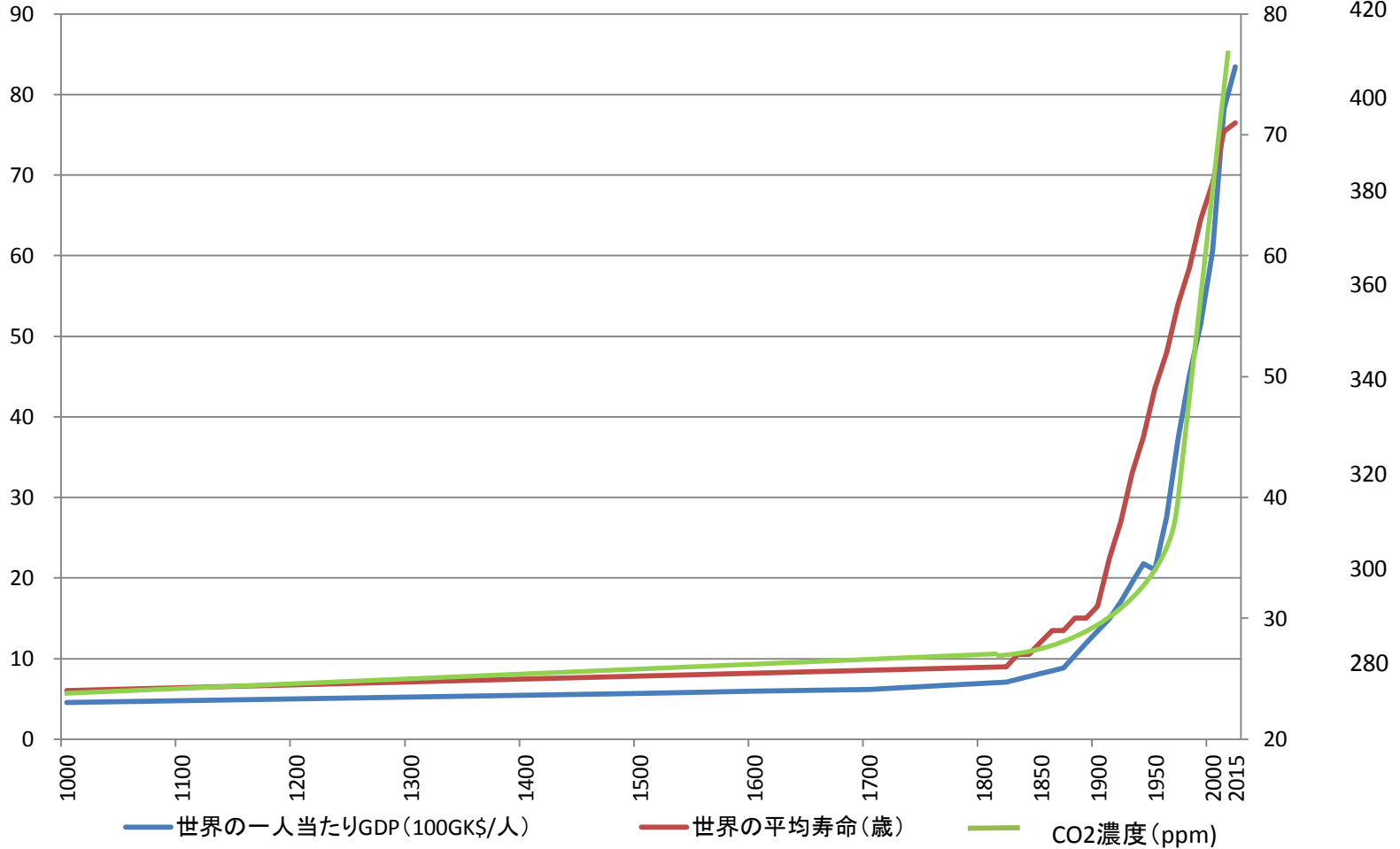
<http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/zu/eav11/eav110000000000.html>

世界の一人
当たりGDP

21世紀は歴史の転換期

世界の平
均寿命

CO2濃度



1人あたりGDP・平均寿命: Angus Maddison、CO2濃度: NOAA

豊かになり、長寿化し、地球を変え始めた

出所: 新ビジョン2050 小宮山宏・山田興一著、日経BP

21世紀のビジョン「プラチナ社会」

人類は量的豊かさを求めて、それを実現した
モノも情報も手に入る、移動も長生きもできる
21世紀の人類が求めるのは質的豊かさだろう
モノも心も豊かな社会をプラチナ社会と定義

課題先進国日本はそこに向かう

文責 小宮山 宏

日本が、21世紀の持続社会をどう考えるのかを見せる機会

● 環境の持続のために「都市鉱山」「再エネ」「省エネ」「自然共生」

象徴的プログラム

- ・都市鉱山からのメダル
- ・福島、東北の再生可能エネルギーで運営
- ・省エネルギー各種 (ZEH, ZEB, EV, FCV, 街等)
- ・アユの戻った東京の川のショーアップ (公害克服を超えて)

● 人間の持続のために「自由な参加型社会」

- ・すべてを国民参加型にすること
- ・募集型: 東京2020応援プログラム

SDGs・パリ協定に応える「持続社会の姿」がレガシー